

(別紙1)

## 管理運営状況 評価シート【令和4年度】

(評価日 令和5年6月22日)

### 1 施設の概要

施設名	いわてリハビリテーションセンター
所在地 電話・FAX HP・電子メール	岩手郡雫石町七ツ森16番地243 電話 019-692-5800 FAX 019-692-5807 ホームページ <a href="http://www.irc.or.jp">http://www.irc.or.jp</a> メールアドレス <a href="mailto:info@irc.or.jp">info@irc.or.jp</a>
設置根拠	リハビリテーションセンター条例(平成5年7月13日条例第31号)
設置目的	(設置:平成5年10月1日) リハビリテーション医療並びにリハビリテーションに関する教育研修及び地域における活動の支援等を行うことにより、県民の保健医療の充実に寄与することを目的とする。
施設概要	土地面積 28,514.69㎡ 病院施設延べ面積 8,249.01㎡ 病床数 一般 100床(回復期病床100床)
施設所管課	岩手県保健福祉部医療政策室 (電話 019-629-5415、メールアドレス <a href="mailto:AD0002@pref.iwate.jp">AD0002@pref.iwate.jp</a> )

### 2 指定管理者

指定管理者名	公益財団法人いわてリハビリテーションセンター
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日(5年間)
連絡先	いわてリハビリテーションセンター 岩手郡雫石町七ツ森16番地243 電話 019-692-5800 FAX 019-692-5807

### 3 指定管理者が行う業務等

業務内容(主なもの)	・リハビリテーションに関する教育研修及び地域における活動の支援等に関する業務 ・施設及び設備の維持管理に関する業務					
職員配置、管理体制	213人(常勤換算 202人) (令和4年4月1日現在)				○組織図 別紙  ○非常勤職員常勤換算 医師 1.7人 歯科医師 0.4人 診療放射線技師 0.1人 計 2.2人  常勤換算後の職員数 財団正規 172名 県派遣 2名 財団臨時 26名 非常勤 2名(常勤換算) 計 202名	
	(内訳) (単位:人)					
	区分	財団職員		県派遣		計
		正規	臨時等			
	医師	6	13	0		19
	看護師	50	6	0		56
	薬剤師	2	0	0		2
	検査技師	2	0	0		2
	放射線技師	1	2	0		3
	管理栄養士	3	0	0		3
	理学療法士	33	0	0		33
	作業療法士	28	0	0		28
	言語聴覚士	9	0	0		9
	臨床心理士	3	0	0		3
	医療社会事業士	7	1	0		8
	事務	14	10	2		26
歯科衛生士	1	0	0	1		
介護福祉士	13	1	0	14		
看護助手	0	6	0	6		
合計	172	39	2	213		

利用料金	健康保険法等の規定により定められた診療報酬の算定方法等により算定した額のほか、リハビリセンター条例施行規則（平成5年9月28日規則第64号）に定める利用料金		
診療時間及び受付時間	診療時間 受付時間	9時から17時まで 8時30分から16時まで	休診日 ・日曜日及び土曜日（リハ部門を除く） ・国民の祝日 ・12月29日から翌年1月3日までの日

#### 4 施設の利用状況

(医療事業実績)		前期間 平均	指定管理期間					備考	
			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度		期間平均
延べ患者数	入院	29,456	29,447	29,105	30,489	31,259	30,851	30,230	
	外来	4,860	4,151	3,838	3,513	3,549	3,178	3,646	
1日平均患者数	入院	80.7	80.7	79.5	83.5	85.6	84.5	82.8	
	外来	20.0	17.0	16.0	14.5	14.7	13.1	15.1	
患者1人あたり 1日平均収益	入院	39,851	42,295	42,864	42,597	42,693	42,148	42,519	
	外来	11,914	11,880	11,865	13,628	12,196	12,287	12,371	
病床利用率(%)		80.7	80.7	79.5	83.5	85.6	84.5	82.8	
平均在院日数(日)		86.5	88.4	88.4	70.5	69.0	70.2	77.3	

#### 5 収支の状況

(単位：千円)

区 分		前期間 平均	指定管理期間					備考	
			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度		期間平均
経 常 収 益	1 医業収益	1,265,071	1,330,679	1,331,397	1,387,005	1,421,236	1,384,215	1,370,906	
	入院診療収益	1,173,856	1,245,461	1,247,543	1,298,738	1,334,537	1,300,305	1,285,317	
	外来診療収益	57,611	49,313	45,538	47,879	43,282	40,230	45,248	
	その他医業収益	33,604	35,905	38,315	40,388	43,417	43,680	40,341	
	2 医業外収益	161,675	158,336	159,006	181,446	177,173	225,954	180,383	
	県からの指定管理料	135,898	131,559	132,955	137,078	147,393	158,896	141,576	
	受託事業収益	17,455	18,556	17,410	17,212	17,086	16,853	17,423	
	その他の医業外収益	8,322	8,221	8,641	27,156	12,694	50,205	21,384	
	3 基本財産運用益	-	445	446	427	379	379	415	
	4 特別利益	0	0	0	0	0	0	0	
合 計		1,426,746	1,489,460	1,490,849	1,568,878	1,598,788	1,610,548	1,551,704	
経 常 費 用	1 医業費用	1,393,729	1,435,387	1,518,034	1,621,230	1,628,058	1,688,679	1,578,277	
	給与費	1,008,215	1,035,308	1,092,920	1,167,694	1,178,860	1,202,687	1,135,494	
	材料費	83,784	72,359	77,486	85,907	87,767	106,451	85,994	
	経 費	286,670	311,615	333,148	361,698	354,444	371,692	346,519	
	その他医業費用	215,060	16,105	14,480	5,931	6,987	7,849	10,270	
	2 医業外費用	28,947	7,320	175	142	82	403	1,624	
	地域支援事業費 (うち職員給与費)	25,529	0	0	0	0	0	0	
	教育研修事業費	532	0	0	0	0	0	0	
	研究開発事業費	1,309	0	0	0	0	0	0	
	その他医業外費用 (不用品原価、雑損失等)	1,578	7,320	175	142	82	403	1,624	
	3 特別損失	0	0	0	0	0	0	0	
	4 管理費	-	7,457	8,064	8,435	8,180	7,338	7,895	
	合 計		1,422,999	1,450,164	1,526,273	1,629,807	1,636,320	1,696,420	1,587,796
経常収支		15,372	39,295	▲35,424	▲60,929	▲37,532	▲85,872	▲36,092	
経常外収支		-	▲11,893	▲330	18,911	0	0	1,337	
収 支		-	27,402	▲35,754	▲42,018	▲37,532	▲85,872	▲34,755	
前年度繰越金		494,977	401,325	428,727	392,974	350,956	313,423	377,481	
翌年度繰越金		498,727	428,727	392,974	350,956	313,423	227,551	342,726	

## 6 利用者の意見等への対応状況

### (1) 利用者意見（満足度等）の把握方法

把握方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療相談窓口対応責任者の指定、投書箱の設置、栄養科における随時嗜好調査の実施によるニーズ等の定期的な把握</li> <li>・患者満足度調査等の実施</li> <li>・連携機関訪問による聞き取り</li> <li>・ホームページ上からの問い合わせ 等</li> </ul>	実施主体	いわてリハビリテーションセンター
------	---	------	------------------

### (2) 利用者からの苦情・要望

受付件数	苦情 5件、指摘・要望等 4件、感謝の内容6件 以上15件		
主な苦情、要望等	対応状況		
<b>①【苦情】(食事)</b> 夕食の時、お膳に配るはしを落としたのに、そのままひろって戻っていた。 コロナ患者には消毒させているのに、スタッフが衛生面でそんな事していいのですか？	指摘のあった内容についてスタッフに確認したところ、「箸を落とした」ことは事実であるが、スタッフの行為が患者の視覚範囲から誤認されたという事が分かり、患者さんに丁寧に説明を行った。 また、この機会を通じて、職員に対する日頃からの衛生管理の徹底等について指導を行った。		
<b>②【苦情】(施設)</b> 外来トイレドアのコート・カバン掛けの位置が高過ぎて届きません。不便です。	昨年9月に、患者さんの要望に応えるべく、利用しやすい位置に新たにフックを設置した。		
<b>③【苦情】(施設)</b> 薬の処方に時間がかかりすぎると思います。	外来でのお薬のお渡しには、待ち時間を取らせないよう努めていることに加え、 ① 患者様にお薬を正しく、安全にお使いいただくため、処方箋やお薬手帳、過去の薬剤服用歴などを確認しながら、注意深く行っていること。 ② 処方内容を医師へ再確認することもあるため、稀に長くお待ちいただく場合もあること。 ③ 待ち時間が長くかかりそうな場合には、お声がけするよう心がけており、特に体調がすぐれない場合やお急ぎのご用がある場合は、お気軽に調剤スタッフまでお伝えいただきたいこと。 についてお答えし、理解を求めたこと。		
<b>④【要望】(施設)</b> ここ最近、比較的静かな夕食の時間食堂でつけているテレビの内容なのですが、ウクライナでの戦争のことで内容が大丈夫なものもあるのですが、何日かずっと性的暴行に関する内容で、さらにその暴行の詳細まで放送するため、聞きたくないのに周りの患者様も見ているため、一人の私情でテレビを消してくださいと伝えることもできないため困っています。食事の時間がつらいです。 誰かに言うものではないのですが、それに近い体験をした人も中にいた場合に備えて配慮をしていただきたいです。 つけばなしにするテレビの内容に少しだけ、よろしく願います。	連日にわたるウクライナ情勢が報道され、目を覆いたくなる場面が映し出され、非常に残念で悲しい気持ちになり、このような放送を見たくない患者さんもいることから、制限してほしいとの要望があったもの。 テレビ放映については、患者さんそれぞれ志向が異なることや、身体機能的にスマホ操作が難しい患者様にとってニュースは貴重な情報源ともなることから、制限を加えることが難しいが、今後、食事時間中にどのような番組を放映したらよいかについて、早急に検討しご報告することとした。 その後、食事はリハ訓練に重要であることから、患者さんが食事に集中できるよう配慮し、当初からテレビをつけないようにした。		

<p>⑤【要望】(サービス)</p> <p>トイレの裏側縁(中)の黒くなっている部分の清掃をお願いします。</p>	<p>通常、トイレの清掃は、清掃業者により午前・午後の毎日2回行っており、指摘箇所の汚れは、指摘の直後に清掃したことを清掃作業員から確認している。</p> <p>利用者には、その事実と併せ、引き続き、心を込めて、より丁寧な清掃を心がけるよう清掃作業員を指導した旨、院内に回答を表示した。</p>
<p>⑥【要望】(施設設備)</p> <p>外来の女性トイレのドアにコート掛けがついていますが、高く届きません。簡単な荷物置き台を設置していただけないでしょうか。</p>	<p>女性用トイレの荷物置き台の設置についてですが、実は、令和3年12月に外来患者様を対象に「患者満足度調査」を実施いたしました際に、同様のご要望をいただいております。</p> <p>当センターでは、利用者の皆様のご不便を解消するため、昨年8月に男女トイレ個室の洋式用(入口左手)と和室用(入口右手)の低い位置(1.2m)に、もう1個の荷物掛け用フックを増設しましたが、患者さんには、位置が分かりにくかったものと思います。</p> <p>この度のご意見を踏まえ、扉を開けた正面にフックの位置を表記させていただきましたので、ご利用ください。</p> <p>何かとご不便等をおかけしておりますが、今後とも、ご忌憚のないご意見をお願いいたします。</p>
<p>⑦【要望】(施設設備)</p> <p>センターの職員の皆様には、お世話になり感謝申し上げます。</p> <p>自分の身の回りのできる事はしていましたが、機械の故障には勝てません。洗濯機の件ですが、予約終了時間に行くと、エラーになっており、使う事ができずにいたら、看護師さんに後の予約が無いという事で、もう1台の洗濯機を使えました。乾燥機も使用しましたが乾いてなく、もう1回まわしました。同室の人に聞いたら、前にも何度かあったと聞きました。どうか、洗濯機、乾燥機の交換をお願いします。</p>	<p>病棟の洗濯機については、稼働状況や設置・運営コストなど勘察し、患者さんの要望も踏まえて、各病棟に2台(1台は乾燥機付き)ずつ設置している。</p> <p>この洗濯機は一般家庭用のものを設置しているため、処理能力を超えて使用した場合などは、故障や不具合が発生する場合もあり、その場合は、すみやかに業者に修理を依頼しておりますが、業者の都合や部品確保の困難などから、即時の対応が難しい場合もあったもの。</p> <p>このことから、患者さんに不便をかけないように、故障した場合の代替用洗濯機を購入した。</p> <p>なお、新たな設置場所の確保が困難であったが、今後施工予定の大規模改修工事において、洗濯機を増設する予定である。</p>
<p>(その他利用者からの積極的な評価等)</p> <p>苦情・要望等は、食事や建物・設備への内容が多く、できる限り患者様の意に沿えるよう対応に努めた。一方で、接遇に関する苦情等は、ほぼなくなった。</p> <p>また、感謝や労いの投書も半数近くと多く、モチベーション向上のため、患者さんへの回答も含め全職員に公開した。</p>	

7 業務点検・評価 (※)

(1) 業務の履行状況

項目	事業計画、県が求める水準	実績 (指定管理者の自己評価)	評価 指標
運営業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション医療</li> <li>・地域における活動支援</li> <li>・教育研修事業</li> <li>・調査研究事業</li> </ul>	<p>医療事業は、前年度と比べ、入院患者数が408人、外来患者数が371人減少したが、紹介患者数は10人増加した。従来からの患者受入体制強化や関連医療機関との連携強化の取り組みにより増加傾向にあったが、12月から1月にかけて新型コロナウイルス感染による2度のクラスターが発生し、相当期間にわたる病棟閉鎖や職員等の感染等による出勤停止措置等による受け入れ態勢の縮小などにより、入院・外来収益とも、前年度実績を下回る結果となった。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症による影響は入院収益にとどまらず、感染防止対策のための資材購入、廃棄物処理費用及び職員の出勤停止に伴う体制維持のための超過勤務手当の増加、さらには国際情勢等の影響による燃油価格や電力料金の増加により、大幅なマイナス収支となった。</p> <p>地域支援、教育研修、調査研究等の公益事業については、人の交流が制限される中で、内容の変更や規模の縮小等はやむを得なかったが、感染対策を強化しての実施やWEB研修への切替等により、概ね計画に沿って取り組むことができた。</p>	B
施設の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・365日リハの実施</li> <li>・病床利用率 88.0%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・365日リハの実施</li> <li>・病床利用率 84.5%</li> </ul>	B
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理計画書に基づく事業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理運営の体制、管理運営の実施、管理運営に要する経費に関して、管理運営計画書に基づき実施</li> </ul>	B
施設の維持管理状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令等による検査等</li> <li>・安全・保安上の点検業務等</li> <li>・施設修繕の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令等に義務付けられている検査等に関し、業者に委託し実施</li> <li>・安全、保安上の点検業務の実施 (12項目)</li> <li>・施設修繕の実施 (2病棟特浴浴槽、空調機、敷地入口歩道ブロック・タイル等)</li> </ul>	B
記録等の整理・保管	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令等の規定に従い、各部門における記録の整理・保管</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部門にて年度毎に編綴、保管</li> <li>・診療録は永年保管中</li> </ul>	B
自主事業、提案内容の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益事業の充実</li> <li>・広報計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益事業の充実</li> <li>シルバーリハビリ体操指導者養成の継続実施、岩手医大リハ科との教育連携、共同研究</li> <li>コロナ禍により参加人数の制限や規模縮小、WEB開催への変更等が生じた。</li> <li>いわてリハビリテーションフォーラム2022の開催(参加者206名)</li> <li>・広報計画</li> <li>計画のとおり、機関紙(情報誌「ななつもり」)の発行(4回/年)、ホームページの随時更新、県地域リハ連携指針の改定の紹介や県リハ支援センター・広域支援センターの活動紹介、高次脳機能障害カルタ読み上げ動画及び自主トレプログラム動画の配信</li> </ul>	B

<p>(施設所管課評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果のあった点 新型コロナウイルス感染症対策による面会制限等の制約がある中で紹介患者数が増加したこと。 新型コロナウイルス感染症の影響により集合型研修等の実施が難しい中で、WEB開催を併用し、公益事業を推進したこと。</li> <li>・改善を要する点 新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した影響により、入院患者数及び外来患者数が前年度に比べ減少していることから、適切な感染防止対策を図り、十分なリハビリテーション医療を提供できるよう取り組むこと。</li> </ul>	B
--	---

(2) 運営体制等

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
職員の配置体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令等の規定に従い、各部門における適正な職員の配置</li> </ul>	法定人員数を満たしているが、医師、療法士、看護師、看護補助者の職種においては、育休・介護法の改定や今後の働き方改革の推進を考慮すると、もう少し職員確保が必要と思われる。	B
苦情、要望対応体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療相談窓口の設置</li> <li>・管理運営への反映</li> </ul>	医療窓口相談の設置及び患者満足度調査の実施、ありがとうポストの投書箱の設置により外来・入院患者からの意見・要望等を把握し、都度、関連部署において改善策を検討し実施することで、業務運営の質の向上に努めている。	B
危機管理体制（事故、緊急時の対応）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員非常招集連絡システムの整備</li> <li>・防災訓練の実施</li> </ul>	<p>10月に総合避難訓練を実施し、その中で、新採用職員を中心に避難器具、消火設備の使用訓練を実施。</p> <p>3月には夜間時における火災を想定した訓練を実施。人手が不足する夜間における職員の特別招集訓練も合わせて実施した。また、上記訓練とは別に、非常時の連絡体制の確保のため、通報連絡訓練を2回実施した。</p>	B
コンプライアンスの取組み、個人情報の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令順守の取組み</li> <li>・個人情報の保管及び取扱い</li> <li>・職員等への指導</li> </ul>	<p>各種規程の整備・運用により法令順守に取り組んでいる。特に、新採用者にはオリエンテーションを行い、周知の徹底を図っている。</p> <p>また、個人情報の取り扱いについては、全職員を対象とした研修会を開催し、継続的に取り扱いの注意・指導を行っている。</p>	B
県、関係機関等との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な連携のとれる体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県央保健所の働きかけにより、管内の医療機関・施設の医療連携担当を一覧化によるすみやかな感染情報の相互提供</li> <li>・盛岡、奥州、気仙医療圏連携パス会議等への積極的に参加(延べ12回)</li> <li>・地域リハ広域支援センター連絡協議会の開催(2回)や広域支援センター圏域連絡協議会への出席等(7圏域、9回)</li> <li>・県内保健医療圏毎に地域リハ関係職員研修会を開催(4回)</li> </ul>	A
<p>(施設所管課評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果のあった点 関係機関等との連携体制の維持に向け、各種会議への参加、研修会の開催を行ったこと。</li> <li>・改善を要する点 働き方、勤務環境を考慮した医療従事者の適正数の確保に努めること。</li> </ul>	B		

## (3) サービスの質

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
運営業務	・年間計画による研修・訓練の開催	・患者、家族等への指導・研修 開催回数 11 回、参加者数延 75 人 ※コロナ禍による面会制限のため 入院患者のみを対象とした。 ・学生臨床指導 延 18 校、対象学生実 106 人(延 663 人) ※コロナ禍による校外活動の自粛等により、キャンセルや期間短縮が多数あった。	B
利用者サービス	・職員研修計画 医療及びリハビリ等の専門研修 並びに医療安全管理研修等を年 12 回程度実施	・全 16 回実施。(うち、医療安全管理研修 8 回、院内感染実技講習 2 回、その他業務 関連 6 回実施。) ・院内研究発表会 1 回実施 (4 件) コロナ感染予防のため、参加人数の制限や ビデオ視聴の形式により実施。	B
利用者アンケート等	・利用者アンケート実施計画	入院患者に対し 5 回、外来患者に対し 1 回 の患者満足度調査を行い、結果はHPで公開 するとともに、調査結果の分析結果を基に各 部門において協議・検討を行い、患者サー ビスの向上・改善に取り組んだ。	B
(施設所管課評価) ・成果のあった点 新型コロナウイルス感染症の影響により集合型研修等の実施が難しい中で、開催方法を工夫し、継続的に研修を実施したこと。 ・改善を要する点 職員満足度調査を定期的実施し、組織全体で職場環境等の改善を行うこと。			B

## (4) サービス提供の安定性、継続性

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
事業収支	・安定的経営の確保	(前記「5 収支の状況」のとおり)	C
指定管理者の経営状況	・安定的な経営の確保 (管理計画書に基づく適切な管理 運営)	収入の大部分を占める入院収益は、管理 計画と比べ、延べ入院患者数が 1,269 人の減 少、入院単価は 852 円の減少となり、80,855 千円の減収となった。 連携機関との意見交換等による関係強化 を続け、入院決定のプロセスを集約し早期回 答に努めたこと、民間救急搬送サービスを利用 した入院患者の迎え入れなどの取り組みに より、紹介患者数は計画を上回ったものの (466 人→484 人)、新型コロナウイルス感染症 による 2 度のクラスター発生及び在院日数短 縮の影響により、延べ入院患者数が計画を下 回った(32,120 人→30,851 人)。 また、外来収益は、延べ患者数は 419 人の 減少(3,597 人→3,178 人)となり、単価が 39 円増加したものの、患者数の減少により 3,826 千円の減収となった。 その他の収益では、新型コロナウイルス感 染対策に係る空床補償や施設設備等支援補 助金を積極的に利用し、43,332 千円の財源を 確保した。	C

		<p>これらから、総収益は計画から 14,997 千円ほどの減収となった。</p> <p>一方、費用では、診療報酬の施設基準等に応じた人員配置、建物・設備の経年劣化に伴う、営繕費の増加、新型コロナウイルス感染の予防対策の強化のための診療材料や備品・器材購入の緊急調達等により、計画から 79,313 千円の超過となった。</p> <p>結果、経常収支は計画から 94,310 千円ほどのマイナス収支となった。</p>	
(施設所管課評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果のあった点 新型コロナウイルス感染症対策による面会制限等の制約がある中で紹介患者数が増加したこと。</li> <li>・改善を要する点 前年度と比較し、医業収益は減少している一方で、医業費用は増加していることから、紹介患者の確保、適切な平均在院日数の確保及び費用の見直しを図ることにより持続可能な経営に取り組むこと。</li> </ul>		C

※（注1）県記載欄：「事業計画・県が求める水準」、「評価指標」「施設所管課評価」

指定管理者記載欄：「実績（自己評価）」

（注2）評価指標

- A：協定書、提案書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績（効果）があり、優れた管理がなされている。
- B：概ね協定書、提案書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績（効果）があり、適切な管理が行われている。
- C：一部、改善・工夫を要する事項が見られたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。



## 8 指定開始年度から評価年度までの総合評価

### (1) 指定管理者の自己評価

#### ① 成果があった取組み、積極的に取り組んだ事項

- ・ 昨年度に引き続き、連携医療機関を訪問しての意見交換、民間救急搬送事業者等を活用した入院時のお迎えサービス、紹介から入院までの待機時間の一層の短縮等による患者確保の取組みを継続した結果、前年度を上回る紹介患者をいただいた。
- ・ 地域支援事業等においては、新型コロナウイルス感染症対策として、人の交流の制限や三密の回避が求められる中で、シルバーリハビリ体操指導者養成事業をはじめ、規模の縮小やWEB開催への変更等があったものの、ほぼ計画どおりに実施できた。
- ・ 当センターの退院患者に対して、訪問リハ・訪問看護の提供に加え、介護保険による通所リハの提供を引き続き行い、医療と介護の連携による円滑な在宅復帰に取り組んだ。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の第8波の影響により、昨年11月までは職員の家庭内での感染数件にとどまっていたが、12月と1月の2回にわたりクラスターが発生したことにより、リハビリ医療の安定的な提供はもとより、経営基盤に多大な影響が生じた。クラスター収束後においては、クラスター発生時における感染防止対策などを教訓にし、より一層の対策強化に取り組んでいる。

#### ② 現在、苦慮している事項、今後、改善・工夫したい事項、積極的に取り組みたい事項

- ・ 収益を確保するためには、安定した入院患者数の確保が必須であるが、県内における回復期リハ病棟の増床が背景にあることから、紹介先として選ばれるよう、引き続き、定期的な訪問等により診療実績のPRや意見交換による関係医療機関との連携体制の構築や、入院照会の回答に要する時間の短縮、これまでの入院患者の送迎に加え、バス事業者におけるセンター発着便の減便による影響の回避などにより、受け入れ態勢の強化等を講ずる等、積極的な患者確保が必要である。
- ・ 働き手不足、都市部への偏在等により薬剤師、療法士、看護師の確保が困難となっており、地理的な不利や、他施設との給与格差（特に若年層）については、短期的な解決は困難であるが、勤務時間の弾力的運用や時間制雇用制度等の導入により働きやすい環境の整備により取り組む必要がある。
- ・ 費用の約7割を占める給与費の抑制が経営改善の課題となっており、持続的かつ安定的な経営を確保するためには、民間企業等における賃上げ状況を見極めつつ、適正な給与体系の構築について検討する必要があるとともに、職員の適正配置はもとより、業務の効率化、平準化等による超過勤務の縮減などに取り組む必要がある。
- ・ ここ数年の職員の増員や退職補充により、新人または経験の浅い職員の割合が増加したため、これらの職員に対する知識、技術等の習得に向けた研修体制のあり方、年齢構成の平準化による技術ノウハウの継承など、今後の担い手確保も含めた人材育成について、計画的な取り組みが必要である。
- ・ 指定管理者及び県出資法人として、健全経営が求められる一方、公益法人としては収支相償が原則とされていることで黒字決算が制限されており、外部要因により収支が大きく変化する経営環境の中で、安定した経営基盤の確立に苦慮している。特に、当センターは職員の平均年齢が約39歳と若く、将来的な人件費増加が経営を圧迫することが懸念され、経費負担増への対策が急務であるが、相反する基準により動きが縛られている。
- ・ センター開所から本年10月で創立30周年を迎えるが、施設・設備の経年による老朽化が著しく、また、これに伴って高度で先進的なリハビリテーション医療の提供が難しくなっていることや入院患者等利用者からの様々な要望に対し、十分な対応ができていない状況にある。計画されている大規模改修の計画的な実施や電子カルテの早期導入など、設備、機器等の定期更新に向けた年次整備計画の策定による着実な整備が必要である。
- ・ 近年、医療機関をターゲットとしたサイバー攻撃が全国的に発生し、医療機関における医療体制等に多大な影響が生じており、全国の医療機関等ではリスク軽減に向けた各種対策を講じている。当センターにおいても、安定的な医療提供体制に支障が及ばないよう、関係機関と緊密に連携し、適切な対策を講ずる必要がある。
- ・ 医療DX推進や働き方改革の実践等により、県民に対する高度リハビリテーション医療の確実な提供と、職員がいきいきと働きがいをもって仕事に取り組める職場環境の整備充実に努める必要がある。

③ 県に対する要望、意見等

- ・ 岩手県におけるリハビリテーションの中核施設としての位置付けから、県行政の執行機動的役割として、県保健福祉部各課から多様な事業支援の依頼や委託を受けている。県所管課でも、これらの業務を一元管理できる仕組みづくりをお願いしたい。
- ・ 令和4年度から施設等の大規模改修工事（機械設備）が開始しているが、当初概算設計から故障等の箇所が増えていることや、予算の制限もあって要望事項が充足されない状況もあることから、中・長期的視点や予防的見地に立ち、リハビリテーション医療を始めとする各事業の安定的な実施が図られるよう、今後の、電気設備、建築の改修を計画的に実施していただきたい。
- ・ コロナ感染症の長期化により経営収支の悪化を余儀なくされており、運営費の補填支援や大規模改修工事实施までの間の修繕費等の傾斜配分や増額措置等について検討いただきたいことと、光熱水費等の諸物価等の高騰に対する配慮を引き続きお願いしたい。
- ・ 医療機器の整備にあたっては、岩手県のリハビリテーション医療中核施設として、高度で先進的なリハビリテーション医療の提供が使命とされているところであり、既存機器の更新のみにとらわれず、県が設置した医療機関の中で唯一整備されていない電子カルテの早期導入をはじめ、医療DX推進の動きに呼応し、医療機器や技術の進歩の状況を踏まえた、最先端の治療・検査・訓練等に要する機器の整備やサイバーセキュリティの強化支援などにも計画的に取り組んでいただきたい。
- ・ 当センターの業務、行事等の企画、立案、準備等を円滑に進めるため、県の予算要求、議会対応等の年間スケジュール等について、年度当初や必要に応じ随時、情報提供いただきたい。
- ・ 県の出資法人である当センターは、職員のサービスや財務等の各種規程は県に準ずる取扱いとしており、このため従事職員の知識習得等が必要であることから、関係する職員の県主催研修等への参加についてご配慮いただきたい。
- ・ 指定管理の受託にあたり、円滑かつ効率的な施設運営と県医療施策との一体性を確保するため、受発注者との定期的な意見交換の場を設けていただきたい。

(2) 県による評価等

① 指定管理者の運営状況について

管理計画に基づき、多くの項目で適正に実施されている。

令和2、3年度に引き続き、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収支が悪化しているところであるが、経営改善に向けた取り組みとして、紹介患者数を継続的に確保するための急性期病院への働きかけ、良質な医療の提供による診療単価の増、適切な平均在院日数の確保、適切なベッドコントロール及び費用の見直しなどを実施することにより、安定的・効率的な経営を推進し、長期的な視点で経営基盤を改善する必要がある。

② 県の対応状況について（自己評価）

施設の管理運営に関し、指定管理者との意思疎通を十分に図るようにしている。

医療機器や施設設備等の更新に係る今後の方針について、指定管理者と連携し検討している。

施設の老朽化に伴う大規模改修について、指定管理者と連携し取り組んでいる。

③ 次期指定管理者選定時における検討課題等

県内リハビリテーション医療の中核施設として、また岩手県リハビリテーション支援センターとして、県民の保健医療の充実に寄与すべく、様々な観点から検討を加えていく必要がある。

9 改善状況等

改善を要すると評価された項目（C、D評価の項目について）

- ・ サービスの安定性、継続性（事業収支・経営状況）

改善状況

（指定管理者から県への報告年月日： 年 月 日）

改善状況の確認

（再評価年月日 年 月 日）